

けない 明日へ

避難者の声

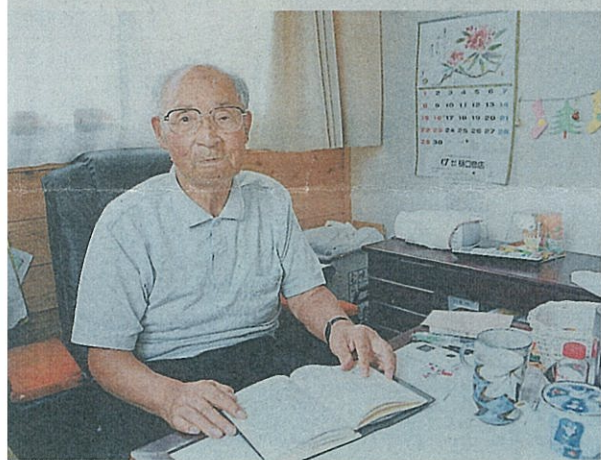
町の除染終了し 帰るまで頑張る

双葉町の山田から妻の順子（みこと）と共に避難している。自宅は東京電力福島第一原発から約四キロの地点で、コメなどを生産していた。

で、一昨年三月十二日に原発事故が起きた際、すぐに避難

山田 光重さん 87

（双葉町から福島市・北幹線第二仮設住宅）



双葉町での思い出をつづった日記を手に古里への思いを語る山田さん

今夏、双葉町の自宅に一時帰宅した時、長男が双葉海水浴場まで連れて行ってくれた。かつて農閑期を利用して海水浴場の防波堤工事に携わった経験がある。堤防は震災の大津波にも耐え抜いていた。とても感慨深い光景だった。

長男は町に戻らず別の場所で一緒に暮らすよう勧められる。しかし、双葉町は生まれ故郷。旧制双葉中（現双葉高）で学んだ思い出や氏神様

ださい 福島民報社編集局 024（531）4122

和合亮一さんら 来年1月、福島で舞台 詩に込めた思い 発信



企画に込めた思いを語る和合さん（右）と木村委員長

合唱、群読の参加者募集

福島市の詩人和合亮一さんの詩を基にした舞台企画「ふくしま未来交響曲 序章 美しい帆をかげよ」は平成二十六年一月十一日、同市の福島テルサで開かれる。合唱や詩の群読などを繰り広げ、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後の「福島」の思いを伝える。

被災地から新たな文化を発信していくことを狙った企画で、風化防止や犠牲者追悼の思いも込められている。実行委員会主催、全農協労連東北地方本部とNPO法人うつくしまランチの共催。

震災と原発事故後、和合さんは精力的に創作を続けている。今回の企画では、和合さんの詩に曲を付けた合唱曲や独唱、群読を披露する。和合さんが提唱する、震災を忘れないために新たに作られた「未来芸術」の踊りをはじめ、震災後の人々の証言なども盛り込まれる。

和合さんは「福島に住む私たちが一緒に何かをつくることで『今』を分かち合えることができるのではないかと語った。

主催者は合唱、群読への参加者を募っている。ともに県内在住が条件で、合唱は経験者五十人、群読は経験不問五十人。三十日締め切り。問い合わせは県農協労連 電話024（555）0933へ。

古里の「今」伝えたい

敬老会場で健康チェック

NPO法人、郡山で医療支援活動

富岡の高齢者に きょう いわきでも



る「きぼうとぎずなプロジェクト」の一環。スタッフ約二十五人が訪れた。糖尿病や骨密度などをチェックしたほか、参加者の筋力や歩幅などを測り、足腰の状況を把握した。

測定結果を基に栄養士が必要な栄養素などについて指導。参加者は自分の健康状態や予防対策について理解を深めた。

同法人は十二日にいわき市で開かれる町敬老会いわき地区会場でも同様の取り組みを展開する。時間は正午から午後一時十五分まで。

栄養指導などを受ける参加者

がんばってます

小田倉ミニバスケット
スポーツ少年団

（西郷村）



「バスケットが好き、というのが好き、という気持ちで競技をしたい。競技を人間形成を心

競技